

(別紙)

プレスリリース

(2025年12月17日)



報道関係者各位

奄美大島からの外来種マングースの根絶成功という 世界的偉業を成し遂げた環境省への感謝状の贈呈

日本哺乳類学会は、本年度設立 102 周年を迎える、哺乳類学と野生動物管理についての専門家から構成される学会です。

2024年9月3日に、環境省より奄美大島からの外来種フイリマングース（以下、マングース）の根絶が宣言されました。環境省は25年にわたり同島でのマングース防除事業を実施し、根絶成功に多大な貢献を果たしたとともに、島の固有種をはじめとする固有種の顕著な回復など生物多様性保全における大きな成果も見られました。奄美大島のような大面積の島からの根絶の事例は稀であり、また多くの固有種の絶滅を救ったことは世界的な偉業と呼べる成果です。

当学会は、この環境省のフイリマングース防除事業の功績を讃え、感謝の意を示すとともに、本事業の意義と成果を将来にわたり広く継承していくため、環境省に感謝状を贈呈いたします。

■ 感謝状贈呈

日時：12月19日（金）13：30～13：45

場所：環境省大臣室

■ 日本哺乳類学会 参加者

日本哺乳類学会 理事長

本川 雅治（もとかわ まさはる）

（京都大学総合博物館 教授）

日本哺乳類学会 理事 外来動物対策作業部会長

亘 悠哉（わたり ゆうや）

（国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 チーム長）

日本哺乳類学会 監事 哺乳類保護管理専門委員会委員（元委員長）

山田 文雄（やまだ ふみお）

（沖縄大学 客員教授・アマミノクロウサギミュージアム QuruGuru 名誉館長）

■ 奄美大島におけるマングース根絶の意義

・大面積の島での根絶達成という世界的偉業

これまでの世界のマングース対策の根絶成功例は、奄美大島を除き確認されているだけで 7 つの島での事例が知られており、最も大きい島での根絶例としては、侵入初期の早期対策によって定着を防いだフロリダの Dodge Island (2.09 km²)、定着した島における事例としてはフランス領の Fajou Island の 1.15 km² が挙げられ、小さな島での成功例に限定されていました。今回の奄美大島 (712 km²) の根絶達成は、Dodge Island の 341 倍、Fajou Island の 619 倍の面積での成功例となり、これまでの記録を大幅に塗り替える快挙となりました。

マングースはサトウキビ畑のネズミ対策や毒蛇対策のために世界各地の島に導入されてきました。例えば、19世紀にはカリブ海の 29 の島々に導入されたほか、ハワイ諸島、フィジー諸島、モーリシャス諸島、西インド諸島、地中海沿岸地域にも導入されています。各地域では、導入後まもなく、生態系への被害が深刻化し、多くの地域でマングース対策が実施されました。また、マングースのもたらす被害として無視できないのは狂犬病の媒介動物となっていることも挙げられます。カリブ海のプエルトリコ、キューバ、グレナダ、ドミニカでは、マングースが狂犬病の主要媒介動物となっており、プエルトリコでは人の狂犬病感染事例の 45%以上がマングースによるものと報告されています。このように、マングース対策は、生態系被害対策としてだけでなく感染症対策としても重視され、世界各地で解決が求められています。

そうした中、奄美大島のマングース防除事業において、広大な面積で対策を展開するためを開発してきた捕獲やモニタリングの技術や運用方法は、世界の他の地域の対策にも大いに貢献すると考えられます。さらに、奄美大島の成功例は、世界各地の外来種対策の担当機関や担当者の根絶にとりくむ心理的ハードルを下げ、次の成功例の促進に貢献すると期待されます。

・奄美大島の生物多様性の回復

奄美大島の生物多様性は、島が大陸から切り離されて以来、200 万年の間に起きた地史や進化のプロセスによって形成されてきました。アマミノクロウサギなどを絶滅の危機に追いやったマングースによる甚大なインパクトは、外来種を放つという行為がこのような貴重な生物多様性を一瞬で破壊させうる力を持っていることを改めて認識させられることになりました。

一方で、奄美大島のマングース対策では、アマミノクロウサギなどの島の生物の絶滅を回避し、さらに大幅に回復させました。衰退から回復へと、まさにネイチャーポジティブの過程を私たちは目の当たりにしています。マングース防除事業は、私たちが生態系に悪影響を与えるだけでなく、生態系を守り、回復させることができる力も同時に持ち合わせているということを明確に示す実例となりました。

奄美大島のマングース対策による在来種の回復は、世界にここだけにしかない生態系を守り、またそれが島民のアイデンティティーや郷土愛のさらなる醸成にもつながり、さらに世界自然遺産の登録ともあいまって観光資源としての価値をもたらすことになりました。そしてなによりも、200 万年という島の生物多様性の維持形成プロセスを、私たちの世代で途絶えさせることなく、そしてマングースの根絶によって、この先 100 年、1000 年と島の自然の価値を残していくにあたっての大きなリスクを取り除いた点に、最大の意義があります。

マンガースの根絶は、過去と未来の地史的、進化的連続性を繋ぎとめる私たち世代で打ち立てた金字塔といえます。

担当連絡先

日本哺乳類学会 理事 外来動物対策作業部会長

亘 悠哉（わたり ゆうや）

（国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 チーム長）